

地域の役に立ちたい!

その気持ちが「青パト」を走らせる原動力

取材・文：市民ライター 若林 瑞江

私が住んでいる地域は安心安全!そう思えたら、きっとそれは自治会の活動のおかげかも。どんな人が、何をしているか、知っていますか?



荏田東二丁目自治会
永井 昭雄 さん



青パトに乗り、地域を守り続けて15年!歩くことも大好きな永井さんは「歩くことでその地域の安全や防犯などの様子がよくわかるし、健康にも役立ってくれる」と笑顔で話す。

たまに見かける青い回転灯が ついた車、知っていますか?

その車は、通称「青パト」!今回、お話を伺った永井さんは、平成18年から青パトに乗り、月4回(平成20年から月2回)、地域の見回りを続けている。15年もの間、長く続けてきたのは、「地域の役に立ちたいし、自分自身が健康でいたいから」だと永井さんは話す。

今年で85歳を迎える永井さんは、大学を出て大手放送局に就職し、東京、札幌、長野など多くの地で働いてきた。移り住む中で地域や自治会の活動に参加できず、「退職したら地域活動に参加したい!なにか役に立つことをしたい。」そんな想いをずっと持っていた。荏田東に引っ越してきたのは平成元年。自身の仕事が一段落し、自治会に参加した平成12年当時、都筑区では空き巣や車上狙い、ひったくりなどが多発していた。自治会で、なにか出来ることはないかと皆で考え、「それなら、パトロールをしよう!」ということになった。最初は仲間と徒歩で見回る中

で、もう少し広域のパトロールができる方法があることを知る。それが「青パト」だった。



パトロールへ出発の様子

防犯に必要なのは 地域の人とのつながり

現在は2人で車に乗っている。交差点や人の多い場所では声を掛け合い、指差し確認。とにかく事故がないよう徹底している。パトロールの内容は、昔から変わらず、まず声掛けの徹底だ。

少しでも不審だな、と思ったら直接話しかけ、それができない場合でも特徴や様子などを記録し、その内容を近くの交番に届け出る。当初は、1日の報告件数も多かったという。

永井さんが移り住んだ当時、周辺地域は造成中で空き地が多かった。「空き地や、雑草やゴミなどで汚れた場所が地域にあることで不審者や犯罪を呼び込んでしまう。そうならないために、青パトだけではなく、地域の人たちが協力し、街をきれいにすることも大事。」と永井さん。例えば、永井さんが参加しているハマロードサポーターは、身近な道路の清掃や美化活動等を行うボランティア団体だ。地域の人とコミュニケーションを取りながら、皆でワイワイと道路などをきれいにしていく。これにより、防犯にとって一番大事な、不審者や犯罪を近づけない街づくりにつながるという。



2人でパトロール 左はペアを組む横田孝久さん

一人一人がつくる安心安全な地域

年をかさね、街並みもかわった。永井さんたちの地道な青パト活動もあり、地域の安全性は良くなっている。「時代によって、変わることもあるが、防犯について気をつけることは変わらない。地域環境の改善が一番大切だし、地域の一人一人が、ちょっとしたことに気をつけることで犯罪を呼び寄せない地域になる。これからも青パトの活動を続けていきたい。」と永井さんは話す。



地域の人との交流

確かに、青パトが走り、道端に挨拶や笑い声があり、花壇やプランターに草花がある地域に悪い人は寄りつかない。永井さんのお話を聞いて、地域の安全は、住民であるわたしたち一人一人の気持ちと行動が大切だと改めて考えさせられた。さあ、まずは近所の人に出会ったら、笑顔で挨拶からはじめてみてはどうだろうか?



青色回転灯を装備した 自主防犯パトロールとは?

自動車に青色回転灯を装備して、自分たちの地域の防犯のために自主的に行うパトロールのことで、都筑区内では約60台が活動しています。活動を行うためには、事前に警察本部長の証明を受けている必要があります。